



真宗大谷派 (東本願寺) 天満別院

大文字城

717号
2024
8/1
大阪市北区東天満1-8-26
06-6351-3535
代表者 輪番・奧林 曉

いのちの一振り

遠い昔のインドです。五百台の牛の車を引いて商売をする大商人がありました。ある時広大な砂漠の向こうの街へ向いに行くことになりました。いつものように飲み水、食料、牛の飼料などの必需品を十分に用意しました。そしてこの隊商が無事に往復するために最も大切なのは星の巡りを読んで正しい方向を見定める人でした。その星読みを先頭に大商人は出発しました。その砂漠は砂粒がとて細かく重い荷物を積んだ荷車は砂の中深くまで沈みます。加えて非常に暑さ、昼間は陣を組み、大きな天幕で覆って暑さを避けて眠り、太陽が傾くと食事をしながら隊商は出発します。砂漠の旅にはなれていましたが、これほど困難なのは初めてでした。

目印が何も無いところをぐるぐる旋回しているような不安を星読みがしっかりと支えてくれます。ある晩、星読みが大商人に告げました。「明日の朝には砂漠を抜けられます」「そうか!」人々が疲れの限界にあることが分かっていた

この度、別院では寺務所職員を左記の通り、採用致しましたので、お知らせ致します。

記

新任 (7月1日付)
寺務所職員 植村 美恵子

この度、ご縁をいただき天満別院で勤務させていただくことになりました。前職は一般企業で事務をしていましたので、自坊ではあまりお寺の事に携わっていませんでした。そのため、寺院実務は経験不足のところが多々ありますので、うまく対応できずご迷惑をおかけすることもあるかと思っております。天満別院で法要や行事等のお手伝いをさせていただいたり、日々の実務を通して必要な知識や作法等を身につけ、また、皆様にご指導いただきながら精一杯努めて参ります。日々学び、コミュニケーション能力を高めていき、また、新たな気持ちで皆様とともに真宗の御教えを聴聞したいと思っております。旅行をするのが好きです。最近、体力不足を感じていますので、体力をつけてまたいろいろなところへ行きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

寺務所職員の紹介

今月の伝道掲示板

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏。
ありがたい ありがたい。
「吾輩は猫である」 夏目漱石

大商人は「明日街に着けば水でも何でも手に入る。残っている物をすべて降ろしてよろしい!」人々は商品だけを積み直し、明日の朝を目指して夜道を進みました。誰もが疲れで朦朧としていました。東の空が白む頃星読みはハッとしました。ウトウトした間にあろうことか牛が急旋回をして戻っていたのです。大商人は一番疲れしているのが星読みだと分かっていたので、すぐさま屈強な若者三人に鶴嘴を持たせ四人で灼熱の中を街の方向に駆け出し、水を探しました。砂の裏の陰に一本の細い木を見つけました。「奇跡だ!天の助けだ!」

三人は全力で掘り進み、砂の色が湿気を帯びてきました。「それっ!」と振りあげた鶴嘴が金属音をたてました。岩にぶつかったのです。あと一歩でした。しかし三人は力の限界です。大商人は声を震わせ「私がそこまで降りて行く間に隊の二、三人が喉を涸らして死んでしまう。頼むあと一振り!」

座り込んでいた若者が最後の力を振り絞りました。次の瞬間岩の間から大きな噴水が空高く上がり、力なく見守っていた人々が一斉に水を求めて駆け寄りました。大商人は一人残らず無事に着いたことを喜びました。

釈尊のお弟子の一人が修行に耐えかねて落伍しかけた時、過去世を振り返って語ったお話。大商人が釈尊、最後の「一振り」で水を吹き上げた若者が落伍しかけていたお弟子でした。
〈ジャータカ二番砂の道本生物語〉

法要・行事予定	
8月	9月
2日 暁天講座 (6時) 新川 隆教師 (第21組 西向寺)	12日 聞如上人御逮夜・常永代経 (14時)
3日 「お経のこころ」	13日 聞如上人御命日 兼日中 (8時)
12日 合祀墓追弔会 (9時) 聞如上人御逮夜・常永代経 (14時)	20日 秋季彼岸会 並 総永代経法要 兼 墓地納骨 (物故者) 追弔法要 (13時30分) 洲崎 善範 師・角谷 早音美さん (第13組 即念寺)
13日 聞如上人御命日 兼日中 証如上人御祥月御命日 (8時) 孟蘭盆会 (13時30分) 松井 聰 師 (第13組 心願寺) 「真宗の供養」	21日 天満別院合唱団「みのり」 (14時)
27日 宗祖聖人御逮夜 (14時)	27日 宗祖聖人御逮夜 (14時)
28日 宗祖聖人御命日 兼日中 (8時)	28日 宗祖聖人御命日 兼日中 (8時) 法話：輪番 奧林 曉
	30日 合唱団「みのり」リハーサル (14時)
	おあさじにお参りしましょう!! 毎朝7:45分~8:30頃まで ※土、日は職員による感話があります。一人でも多くのご参詣をと、願っています。



子血蘭盆会法要

うらぼんえ

日時

8月13日(火)
午後1時30分
～3時30分

講題

「真宗の供養」

ご講師

松井 聰師 (心願寺)

ご講師からのメッセージ

お盆の季節になると“供養”という言葉が表に出てくる時期と言えます。日頃仏事を疎かにしていた人も、〇〇供養という文字が目に入り、聞こえてくると、心が揺らぎ身が動くということが起こることもあります。

亡き方やご先祖の供養のために何かをしてあげる、という心は尊い心であります。お仏壇を綺麗に掃除して、お寺様を迎えてお盆のお勤めをしてもらう、お墓参りをして、お寺にもお参りをして、お供えをさせてもらうことによって、亡き方の供養になり、自分も何かスッキリとしたような気持ちになり、善い事をしたと感ずるのです。こういう供養は追善供養と言います。

親鸞聖人は「父母の孝養のためとて、一返にても念仏申したること、いまだそうらわず」(歎異抄第5章)と追善供養をきっぱりと否定なさいました。

それは何故なのか？ 真宗の供養とはどういうことか？ 仏法に尋ねてみたいと思います。

真宗大谷派(東本願寺)天満別院



Q&A

お墓の方角が悪いと言われました。

放っておいたら悪いことが起りますか？



答え

お墓にまつわる迷信はたくさんあります。その中でも墓相で吉凶を見る墓相学と言われる占いの一種があります。しかもそれを主張する人によって、お墓の形や色や大きさ、環境、方角など墓相の内容はまったく異なり、因果関係もなければ統計さえもありません。まったく信じる必要のないものです。親鸞聖人は、「一念多念文意」の中に「占相・祭祀をこのむものは外道なり」と教えられています。占相とは、人の吉凶の相を占うこと。祭祀とは祖先や神々を祀ることです。墓相や、墓石の向き、場所などを気にすることはまったく

ありません。世間の「悪いことが起こる」などという言葉に左右される必要はありません。そもそもお墓は、「悪いことを起こす」ような存在ではありません。もし毎日の生活の中で思いがけないことや、突発的なことが起こったとしても、それはお墓の方向が悪いからなどではありません。世の中の全ての出来事は、まず因(原因)があり、様々な縁(条件)が整った時に、果(結果)が生じるというお釈迦さまの教えである因果法の法則からなるのです。

正面上に「南無阿彌陀仏」と書かれてある浄土真宗のお墓は、迷信によって不安がったり恐れられたりすることのない生き方を示しています。私たちは迷信に惑わされない南無阿彌陀仏の心をよく聞き取り自分の中に起こってくる不安や恐れの原因を見つめ直してみることで、その時こそ、さまざま迷信から解放される歩みになるのであり、亡き人に報いることにもなるのです。

(第13組 心願寺松井恵)

ご案内

墓前申経について

お盆の墓前申経は、左記の日程となります。

記

日程 8月12日(月)から
16日(金)

時間 9時～17時まで

受付 天満別院

同朋会館講堂前

※ 12日・13日のみ講堂前それ以外は、墓地事務所にて受付

※ 休憩所として同朋会館講堂をご利用ください。

※ 別日にて申経をご希望の方は、事前に別院寺務所へご連絡ください。

※ お供えものは当日にお持ち帰りください。

報告

7月 定例法話

7月27日(土)、御講師に第2組 光照寺 墨林 浩師をお迎えし、講題「聖人のつねのおおせ」についてお話いただきました。

師は、「分別」とは自分を正当化したい理性が働くことで、親子や兄弟など身近な人ほど自分と同じ土俵に立って欲しいと考えてしまう。長年生きて色々な経験してきた人ほど難しいが、お互いに歩みよって自分の土俵から出るこ



第2組光照寺 墨林 浩師